

東京国際木工機械展会場で見えた新たな趨勢二題を紹介しよう

もう一つは奇想天外な出展方式で

成る程「これぞまさしくコロンブスの卵」だ……



もう一つの話題に関しては、事の発案者である日高機械（石川県羽咋郡志賀町徳田、日高明正社長、☎〇七六七―三七―一三二一）の専務・日高明氏に会場取材させていただいた。以下はその折の要旨である。



▲日高明専務

〔語る人〕日高明氏

私も日高機械としては今回、DVD大型映像装置でいろんな機種の実際の加工事例をモニターし来場者への参観に供していますが、これはビデオテープで六〇本分のデータが入っていますので、それ

ぞれ要望に応じてサツと目的の場面が迅速に呼び出せます。

それらDVDで紹介している機械は、私どもの会社では二五〇〇坪の敷地内にそれぞれに配置し常設しているわけでして、具体的に購入目的を持った方々はそれらに実際に持ち込んだ材料を通しながら、心ゆくまで検討を重ねていただけるよう配慮されています。ですからこうした展示会場の限られた条件下の一分二〇分の時間内で、稼動も省いた形でそうした目的を満たそうとするのはそもそも最初から無理な話です。

私どもは今回、展示会場としての必要な物を「低床式トレーラー」に予めレイアウト配置して会場入りしました。自分達の所定の小間位置にトレーラー部分を据えた後、運転席（燃料タンク部）は切り離して直ちに外部の駐車場に移動しましたので、ここに据えられたトレーラー部分は唯単なる置き台であり、もはや車輛ではなくなっただけです（笑い）。

この積載荷重四一・五七トンの低



床式トレーラーのエッジシステム本体が三m×二mで、ちょうど四小間分にびったり納まります。本当のことをいいますとネ車輪部分は説明看板で上手く隠しましたので（笑い）、私からそう種明かししないと誰も積載荷重四〇トン以上もある低床トレーラーだとは気が付かないようですよ（大笑い）。その床の上に私どもが参観に供すべき選定した機械を予め来場者の



視線も予想しながら配置固定し、必要な説明板の類も用意し、先述のDVD大型映像装置も特別席に納まるように考えて、自社を出た時のレイアウトスタイルでそのまま会場小間展示でき、終わったらそのままシートで覆いバンドルして帰社すれば済みますので、何度も積んだり降ろしたりの面倒な横持ちの手間もかからず、またそのための大枚の費用も節約できると

いう、極めて便利な出展方法の発明（大笑い）に繋がりました。

歩いて会場内を巡る来場者は視線がほんの少し高いだけで何の違和感もない……いやむしろ平常よりほんの少々上目に並んだ機械のほうがかえって見易いし、あれっという意外性効果もあって面白いよと逆に皆さんから褒められました。この方法はまた別途に各地方へのPRキャラバンにも使えます。正直いいますと会期前はとことん忙しくて、気は急ぐし時間は迫りし困っていた時に、三日前になって突然これだ！と発想したんです。困るところというアイデアが湧くんですね（笑い）。

今回の出展用に積んできた六台は単純な手動機械ばかりです。これらは別にいちいち駆動しなくても先刻その道の皆さんは承知していますから、躯体と機種名・仕様のみで差し支えない……つまり私どもが昔から得意とする社寺用の升格子（格天井）の部材加工する大型削出し機械・大型直角二面鉋盤・大型切断機・大型芯加工機……等々の大規模木造建築用に特化した機械です。

だがもう一方のNC関係の機械例えばブレカットライン等は単に小間に並べたり、場所の制約でパネル展示するだけでは意味がないですね。実際に稼動状況を見て貰わないと参観者にも本来の理解を

得られませんので、これらは先のDVDの映像を通じて細部までじっくりと観覧に供しています。

またその他として、ちょうど私も鋭意取り組んでいるボアズファクトリーと称する、いわば「リンキ」の延長線上で、国産材を如何に使うかという課題のためにこうした材料も一杯置いていますが、これは実際の加工や関連するトレーニング用にこういうボアズファクトリーも準備しています。つまりその工場にはこんなに多彩な機械が置いてあるんですよ、というデモンストラーションがこれなんです。

あのトレーラーの連結部アームを見てください……運転席の後ろの連結ピンに嵌め合うために、グーツと片持ち状に反り上がっていますね。連結アームのその一番高い位置に乗っているのは、さっきいきました社寺用の升格子（格天井）部材を削るための大型機械で、重さは五トンもあるんですよ。それが何と反り上がった片持ち状アームの上に乗るで宙に浮いているように乗っているために、機械のメカに詳しく関心のある人ほど驚くんです……ピン孔に通した別の太いシャフトでフロアとがっちり支えているに違いない……とわざわざ覗き込むんですが、実は違うんです。

このトレーラーの連結アームは



片持ちでも、五トンの重量を載せたぐらいではビクともしない。へえそういう仕掛けだったのかあとそれがまた話題になって（笑い）、参観者が余計に興味を示して見られるのです。その反り上がったアーム下部の隙いた空間がちょうどDVD映像装置の格納場所にピッタリですから笑っちゃいますね。

全体的には今回は日高機械の社名をわざと麗々しく標示しませんでした。で、「お前んとこは何という会社だ」と周りを回って社名を探しているうちに、「何だ日高機械だったのか」と判ってこれまた大笑いです。成る程「如何にも日高機械らしいね」とかえって好評でした（笑い）。そうなると後ろのほうに余り見えないように置いた開梱材などを、何か面白い物

でも隠されているんじゃないかと逆に入り込んで見て覗くんですからまたまた大笑いです。来場者の好奇心とは全く不思議なものでですねえ（笑い）。

以前の日高機械は換用機械・組子機械など建具機械の専門だと勝手に思い込んでいる人々は、横目でチラッと一瞥して素通りするのが当たり前でしたが、どうしてどうして、近年の日高はどんどん新規部門の開発に精出しています。それに気付いていただけなかった参観者が、今回の私どもの変な出展方法のせいで、向こうから好奇心を働かせて関心を引いていただく結果になろうとは、いやはや今二期せずしていろいろな心理状況が発見でき勉強になりました。